

防災だより

大きな地震、豪雨、強い台風。日本各地でも次々と起きる大きな災害…。

9月末の台風24・25号の激しい風雨。学校では、昨年度工事を終え、幸い教室への浸水被害はありませんでした。しかし、24号通過の次の日、台風一過の秋晴れの下で起こった道路の大渋滞。続いた停電。今も残る爪痕…。自然災害の怖さ、影響の大きさを実感しました。

本校の取組(7~11月)

さて、本号では、7~11月の取組についてお知らせします。

○ ショート訓練 (7月・9月)

命や安全を守る意識を高める実際的な訓練です。7月は安全面を考慮し、給食時間内に行うことを予告して実施しました。9月は実施期間(1週間)のみを予告し、火曜の5時間目の実施となりました。

7月の給食時間の訓練では、「座位保持椅子のテーブルを頭の上に掲げた」「椅子を持ち上げて生徒の頭部を保護した」「ずきんをかぶせ、車椅子が動かないように押さえた」(アンケートより)などの命を守るための行動がとられました。



7月ショート訓練
(ランチルーム)

ショート訓練

(基本的に実施時刻の予告なし・校庭等への避難なし・5分程度)

- ①(放送)訓練開始
- ②(放送)緊急地震速報音 + 地震音(約1分)
- ③安全確保行動
- ④振り返り(2分間)



○ 8月 救急法研修(職員研修)

応急手当普及員の資格をもつ本校職員を講師に、心肺蘇生法(主に胸骨圧迫)の重要性を理解し、習得するための研修を行いました。

○ 10月 地震・強風体験(小学部5・6年 修学旅行)

鹿児島市立科学館には、震度5強までの地震体験、風速5・10・15mの風体験コーナーもあります。

震度5強の揺れ。体験してみましたが、それは予想していたよりも激しいものでした。何もできません。ただただ必死に揺れが収まるのを待つだけでした…。

南海トラフ巨大地震で想定される県内最大震度は7。とてつもない揺れです。体験し、揺れの強さを実感された保護者は、「防災袋の中を見直そう。」とおっしゃっていました。

○ 10月 こども療育センター 合同緊急時対応訓練

1学期は学部ごとにセンター搬送(体育館前廊下付近)までの訓練を行いました。2学期はセンターとの合同訓練で、センター病室に搬送し、救急車搬送まで実施しました。緊急事態発生時の放送、センターへの搬送連絡、児童の状況伝達など様々な内容を含む訓練となりました。

地震体験



療育センターへの搬送

○ 11月 スクールバス緊急対応訓練
緊急時に備えるため、災害用伝言ダイヤル（171）の使い方をスクールバス利用児童生徒の保護者で体験したり、災害伝言ダイヤルで児童生徒の安否確認をしたりすることをねらいとして実施しました。



校長室。スクールバス運行図で確認しながら171を使って収集した情報の整理をしています。

○ みやざきシェイクアウト（県民一斉防災行動訓練）
南海トラフ地震の発生を想定して行う防災訓練です。防災週間に先立ち、11月1日の一斉訓練日に本校でも実施しました。（11月1日時点で、宮崎県の参加登録者 69,704 人ということです。）訓練開始の放送の後、緊急地震速報音が鳴り、それぞれが安全確保行動をとりました。

11月 防災週間の取組

12日～16日



○ 防災給食週間

今年度は防災週間に合わせて実施。備蓄食と同じメニューが一品入っていました。

- 12日（月） 肉じゃが
- 13日（火） ハンバーグの和風あんかけ
- 14日（水） すき焼き煮
- 15日（木） カボチャのポタージュ
- 16日（金） カレー



○ 避難訓練（火災）

給食調理室から火災が発生したという想定で、避難訓練を実施しました。



○ がれき体験コーナー設置

ボトルキャップを広げ、災害後のがれきが散乱している状況を作った疑似体験コーナーです。

車椅子は予想以上に前に進みません。通ってみたり、災害時の行動について考えたりしました。

ちよこっと情報

○×クイズに挑戦!

* 8月の救急法研修（職員研修）で出された問題から

- ① おぼれた人を助けた場合、まず、飲み込んだ水を吐かせてから心肺蘇生を行う方がよい。
- ② AEDは止まった心臓を動かす助けをする機器である。
- ③ AEDは呼吸のある人には取り付けてはいけない。

答え

- ① × 吐かせることはしないが、口の中に入っているものがあれば除去する必要がある。
- ② × 止まった心臓にはショックを行わない。心臓の心室細動を止める機器。
- ③ × 取り付けても体の状況を解析するので問題ない。